

地球と走ろう 環境にやさしいエコドライブで！

エコドライブは費用をかけずに今日からすぐにも実践できる方法です。私たちのちょっとした心がけで、二酸化炭素排出量の削減につながります。できる項目から実施し、無理なく継続することが大切です。実際の運転では、車の流れにのり交通法規を守り安全優先で走行しましょう。



**1 ふんわりアクセル
「eスタート」**

普通の発進より少し緩やかに発進するだけで10%程度燃費が改善します。最初の5秒で時速20キロが目安です。

10 自分の燃費を把握しよう

自分の車の燃費を把握することで、エコドライブ効果が実感できます。

**9 走行の妨げとなる
駐車はやめよう**

迷惑駐車は渋滞をもたらし、他の車の燃費を悪化させるばかりか、交通事故の原因にもなります。

8 不要な荷物はおろそう

車の燃費は荷物の重さに大きく影響されます。100kgの不要な荷物を載せて走ると3%程度燃費が悪化します。また、空気抵抗にも敏感です。キャリアなどの外装品は、使用しないときは外しましょう。

2 加速・減速の少ない運転

車間距離が短くなると、ムダな加減速の機会が多くなり、燃費が悪化します。

エコドライブ 10のすすめ



**7 タイヤの空気圧から
始める点検・整備**

空気圧チェックを習慣づけましょう。タイヤの空気圧が適正値より不足すると、燃費が悪化します。エンジンオイル・オイルフィルタなどの定期的な交換によっても燃費が改善します。

**3 減速時は早めに
アクセルを離そう**

エンジンブレーキを使うと2%程度燃費が改善します。また減速する時や坂道を下る時にもエンジンブレーキを活用しましょう。

4 エアコンの使用は適切に

暖房のみ必要な時はエアコンスイッチをOFFにしましょう。

**5 ムダなアイドリング
はやめよう**

駐停車の際にはアイドリングを止めましょう。10分間のアイドリングで、130cc程度の燃料を消費します。

**6 渋滞を避け、余裕を
もって出発しよう**

出かける前に道路交通情報を確認しましょう。さらに、出発後も情報をチェックして渋滞を避ければ燃費と時間の節約になります。

〔出典：エコドライブ普及連絡会策定資料〕

**毎月第4土曜は
廃食油回収の日**
4月27日(土) 午前10時～正午

回収会場：市役所別館横電話ボックス付近
回収物：廃食油、牛乳パック、アルミ缶
問環境課 ☎ 587-6003、エコロジーマー
ケットやすの会・増村 ☎ 586-1441

◆環境課
☎ 587-6003
FAX 587-3834

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

103

歴史民俗博物館

☎587-4410、Fax587-4413

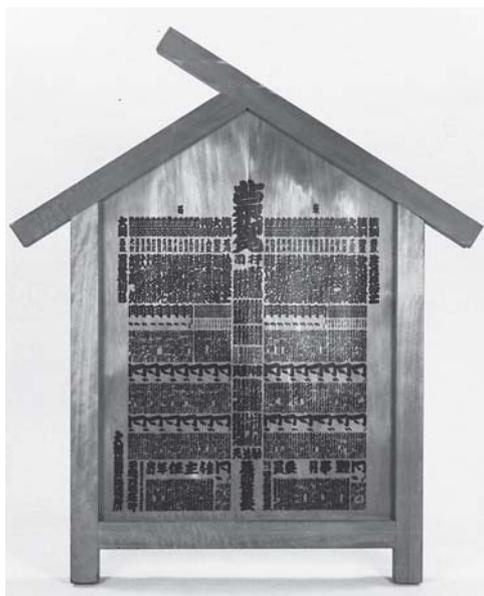
【4月の休館日】 月曜日、30日(火)※29日は祝日開館 市民は入館無料

◆テーマ展 野洲の古文書(11)「八夫のくらし—苗村家文書を見る—」／4月21日(日)まで

◆テーマ展 「昭和のくらし—むかし・なつかし・モノがたり—」／4月27日(土)～6月30日(日) 展示解説…5月11日(土)午後1時30分～



蔵間(右)と高見山の一番



大相撲野洲場所番付

大相撲野洲場所

—昭和五十三年十月十二日—

テーマ展「昭和のくらし」

では、古写真や民俗資料により、ひとむかし前の暮らしの風景や生活用具を展示します。今回はその中から、野洲のある日の出来事を紹介します。

大相撲の巡業は、かつては全国津々浦々、小さなまちにも訪れたものでした。野洲でも、1978(昭和53)年10月12日、野洲駅南口の特設会場(現・野洲文化ホール敷地)で「大相撲野洲場所」が開催されました。

ちようど大相撲で野洲出

身の力士「蔵間」が大活躍し、人気を集めていたころです。蔵間関(本名蔵間龍也、1952～1995年)は、1968(昭和43)年に

時津風部屋に入門しました。二枚目の優しい風貌でファンが多く、最高位は関脇、技能賞2回、敢闘賞1回を受賞し、幕内在位62場所、通算勝ち星765勝をあげています。野洲場所は、地元の蔵間後援会が勧進元となり、手作りで準備が

進められました。

駅前通りには、のぼりがずらりと立ち並び、まちをあげての歓迎ムードでした。力士らは旅館に分かれて宿泊し、稽古を野洲小学校グラウンドや空き地で行い、仮設炊事場でちゃんこ鍋を作るなど、珍しい光景もみられました。

当日、午前6時に農協屋上から相撲太鼓が鳴り響き、午前9時には会場はほぼ満席です。土俵では、取組のほか、稽古や、しよつきり相撲(技

などを面白おかしく紹介する見世物)、相撲甚句も披露されました。この日は、保育園・幼稚園、小・中学校の園児・児童・生徒も招待されて観戦しました。間近に見る力士の取り組みは迫力があり、観客動員数一万余り、晴天、満員御礼の巡業でした。

この時の板番付が今も残っています。木製で、高さ143cm、幅121cmもある堂々としたもので、「相撲字」と呼ばれる独特の書体で記されます。上部は大入り満員の願いを込めて「入」の字形に仕立てられています。

番付には、真ん中に「蒙御免」と大きく書かれています。これは、かつて勧進相撲が寺社奉行の許可を得

て興行した名残です。続いて、行司や審判委員、勧進元が名を連ねます。両側には、東西の力士を横綱から順に記し、幕下の力士になるほど、四股名を小さく記していく習わしです。最下段には、理事をはじめ協会役員が列記されます。横綱の北の湖、輪島、若乃花や、三重ノ海、貴ノ花、高見山ら人気力士が名を連ね、蔵間は西前頭筆頭に記されています。郷土に錦を飾った蔵間には、観客からひととき大きな声援が送られました。

大相撲の一行を迎えて盛り上がったまちの姿や、番付から感じられる時代や世相を、楽しみながらぜひご覧ください。(博物館学芸員 行俊勉)